青梅市文化財ニュース

第208号

平成17年2月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市文化財地図『青梅を歩く』の改定作業始まる

「今度の日曜日、何しようかな…」なんて、お金もかけずに身近で過ごす何か良い方法を考えたことってありませんか？

そのような時、私たちが住んでいる青梅を改めて、行ってみる、見てみる、試してみる、という一日を過ごせたらどんなに有意義でしょうか。こんな時の案内役に、青梅市文化財保護指導員連絡協議会では青梅市文化財地図『青梅を歩く』を作成しました。

現在の地図は、国土地理院の二万五千分の一の地形図を二枚合わせた69cm×100cmの大きさで、紙の質にもこだわり、探訪途中で雨が降ってきた時でもこれを広げて雨を凌げるように配慮しております。昭和57年を初版とし、途中改訂を加えながら、昭和60年再版後、平成4年に第3版を重ねて現在に至っております。

初版から23年が過ぎ、時の経過と共に市内の状況も大きく変わってきたことや、在庫も少なくなってきたことから、現在の内容を再度検討し、変更、加筆、削除を含めた青梅市文化財地図『青梅を歩く』の改定作業が進められております。

青梅市には、国、東京都、青梅市などが指定した文化財が数多くあります。また、原始・古代からの遺跡や、中世・近世からの社寺の存在、そして、そこに祀られている、墓碑、板碑等などの金石文が青梅市の歴史を物語っております。一方、現在でも地元の方々に継承されている獅子舞などは特定された時しか奉納されませんが、記載された時期に合わせて行くことにより、貴重な一時を過ごすことが出来ることでしょう。また、市内各地に点在する名木・巨木は青梅市の自然が育んだものとも言うべき雄大な文化財となっております。

山あり川ありの地形が造りだす景観、そしてそれを訪ねてのハイキングコース、その場所へ行くためのバス停の名称や路線図なども記載された地図となっております。

今回の検討会では現在記載されている各項目の説明が現状に合ったものになっているか。たとえば、「友田の桑」のように、枯れてしまって存在しないもの。このようなものを外したり、住宅開発により地中から発見された重要な遺跡、遺物などの新規記載。獅子舞などの、お祭りの祭礼日の変更。最新のバス路線の記載など、全項目について検討がおこなわれています。ただし、紙面は現状と同じため、項目数は大幅に増やさず、また、説明の文字数も100文字前後を

目途に進められております。

一番重要な表紙絵についても、現在の、『山車の幕・龍の刺繍』から青梅の特徴を現すようなデザインを考えております。

現在、『青梅を歩く』地図の部数は僅少ですが、郷土博物館等で一部500円にて販売しております。最新版については、金額は決まっておりませんが、原案の決定と、それに基づく校正や印刷を考えると、来年には発行が出来る運びになりそうです。

余暇を活かす一手段として、新旧の地図を携え、青梅市の変貌について比較しながらの市内探訪も面白いかと思えます。

これを機会に、青梅の新発見をみずから味わってみてください。

(文責・鈴木 晴也)